



東北ヘルプ 報告書

作成者：東北ヘルプ事務局長 川上直哉

作成日： 2012年4月27日

目次

概況

1. 事務局報告
2. 人道支援プロジェクト報告
 - (1) 「仮設住宅支援」
 - (2) 「外国人被災者支援」
 - (3) 「食品放射能計測」
 - (4) 「短期保養」
 - (5) 「スピリチュアル・ケア」
3. 会計報告
4. 今後への課題

概況

(1) 背景

2011年3月11日に起こった地震・津波・原子力発電所事故の三つの災害は、2万人もの死者を出した。深刻な影響を受けた人数は計り知れない。その影響は、1年を経た今なお、薄らぐことがない。被災地の状況は激しく変化している。その変化に対応しきれず、多くの被災者は孤立させられ、不安を募らせている。

「仙台キリスト教連合 被災支援ネットワーク（東北ヘルプ）」は、この被災地の直中において、被災者に寄り添い、多くの他の支援者と共に、必要な支援を行っている。

「仙台キリスト教連合」は、仙台を中心とした地域にある約150の教会のコンソーシアムである。1960年代から始められたこのコンソーシアムは、1989年に活動を本格化させた。現在では、カトリック・プロテスタント両派のほぼすべての教会が参加している。

仙台キリスト教連合は、震災を受けて、3月18日に「被災支援ネットワーク」を立ち上げた。このネットワークは、「募金」と「情報」を受け付け・整理し・配分することをその目的としている。このネットワークの略称を「東北ヘルプ」と呼ぶ。東北ヘルプは、理事会によって構成される任意団体であり、仙台キリスト教連合に対して説明責任を負っている。

東北ヘルプは、他の宗教教団との協働を生み出した。宮城県には、「宮城県宗教学者連絡協議会」というコンソーシアムがある。1972年に発足し、県内約2100の宗教学者が加盟しているコンソーシアムである。このコンソーシアムに働きかけることにより、東北ヘルプは、2011年4月、「心の相談室」という諸宗教共同の被災支援団体を生み出した。この団体は、医療者（外科医・在宅ホスピス院長）を代表者とし、学者（宗教民俗学・東北大学教授）を事務局長とし、宗教者（東北ヘルプ事務局長・日本基督教団牧師）を副代表として、宮城県宗教学者連絡協議会と世界宗教学者平和会議日本委員会の後援を得て、被災者への傾聴活動などを通じたスピリチュアル・ケアを行う団体となった。

(2) 「ケリグマ・プロジェクト」

東北ヘルプは、まず、教会再建のための募金を開始した。現在、募金総額は8000万円を越えつつある。この募金を用いて、東北ヘルプは、「ケリグマ・プロジェクト」を開始した。「ケリグマ・プロジェクト」とは、地震・津波・原子力発電所事故の影響を受けた教会の再建を支援する活動である。この活動によって東北ヘルプは、200の教会再建を支援し、158世帯の教会員家族を支えた。

(3) 「コイノニア・プロジェクト」

同時に東北ヘルプは、JEAの協力の下、一人の専従者を雇用して、「コイノニア・プロジェクト」を開始した。「コイノニア・プロジェクト」とは、被災した教会間に連帯を生み出し、

世界各地の教会と被災教会との連携を促進する活動である。121教会から被害状況調査アンケートを回収し、200以上の教会を訪問して状況を直接確認した。このプロジェクトは現在、被災地にある17の教会が被災地外にある教会と直接の姉妹教会関係を結ぶことを促し、現在、6つの教会が姉妹教会を得るに至った。また、各地の教会ネットワークと連絡し、あるいは教会ネットワークの立ち上げを支援した。この活動によって連携している各地の教会ネットワークは以下のとおりである。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| a. 311あおもりネットワーク | 協働して福島短期保養プロジェクト |
| b. 311いわてネットワーク | 津波被災地支援をバックアップした。 |
| c. いわき CERS ネット | 協働して食品放射能計測プロジェクト |
| d. FCC 福島キリスト教協議会 | 協働して福島短期保養プロジェクト他 |
| e. DRC-net | 協働して教会ネットワーク構築をしている |
| f. NCCJ | 被災地の情報をお伝えし、支援に繋ぐ。 |

（４）「グランドハウス・プロジェクト」

上記の活動の結果、東北ヘルプは被災地における情報のセンターとなった。集積する情報を活用し、東北ヘルプは人道支援活動を担うこととした。東北ヘルプが担う人道支援活動の中核は、「グランドハウス・プロジェクト」と呼ばれる。

東北ヘルプは、（１）依怙臆肩をしないこと、（２）これ以上被災者を傷つけないこと、（３）東北ヘルプ理事会への説明責任を負うこと、を原則として、「グランドハウス・プロジェクト」を企画立案した。グランドハウス・プロジェクトとは、①仮設住宅への支援を中心とした支援活動のセンターとなり、②情報を収集して新しい支援プログラムを構想し、③資金申請書を作成して新しい支援プロジェクトを実行すること、そして④その新しい支援プロジェクトを通して得られる新しい情報に基づいて新しい支援プログラムを構想し、⑤資金申請をして新しい支援プロジェクトを実行する、というサイクルを維持する活動である。

「グランドハウス・プロジェクト」を遂行するために、まず、東北ヘルプは、2011年9月、一般財団法人を設立した。その法人名は「東北ディアコニア」といい、略称を「東北ヘルプ事務局」という。現在、東北ヘルプ事務局は、グランドハウス・プロジェクトのために12名の専従職員を雇用し、1000軒を超える仮設住宅を支援し、55の支援活動を行い、4つの新規プロジェクトを開始した。

心の相談室は、宗教者が協働する場としての機能を強化し、傾聴を中心とした活動を展開してきた。具体的には、a. 避難所や仮設住宅への出張傾聴喫茶、b. 電話相談、c. ラジオ放送を行った。

プロジェクトは7月から開始された。

7月から9月までの期間は、準備期間となった。事務所の場所を確定し、最低限の人員を雇

用し、仮設住宅での支援活動を開始した。

9月から12月までの期間は、仮設住宅での支援を続行しつつ、他の支援団体との連携を作り上げ、新しい支援プログラムを構想し、プロジェクトの企画書を作成して資金申請を行った。

1月から3月の三か月間は、独自プロジェクトの立ち上げの期間となった。食品放射能計測所が試験稼働を開始し、外国人被災者支援センターが開設され、大学に寄附講座が設置され、短期保養プログラムが稼働を始めた。また、事務局体制を強化し、次期三か月の報告期間のための準備を整えた。

4月から6月までの期間は、これまでの総括を行い、支援していただいた各方面に報告を行いつつ、始まった独自プロジェクトの執行を通して、被災地における最新情報を掴み、更なる支援のプログラムを構想することが、東北ヘルプの中心的な課題となる。

1. 事務局報告

(1) 「事務局」について

東北ヘルプは「グランドハウス・プロジェクト」を構想し、実行している。これは、被災地の支援センター（「グランドハウス」）を構築し、そこで支援を実行しつつ情報を収集・整理し、新しい支援プログラムを構築し、そのプログラムを実践しつつ、再びまた新たな支援プログラムを構築するというプロジェクトを担うものである。

東北ヘルプは被災地に働く数多くの団体のセンターとなった。それは「グランドハウス・プロジェクト」の成果である。それは事務局が「大きな家（グランドハウス）」となって他団体に仕えることができるようになった成果である。

数多くの団体が被災地で活動を続けているが、その多くが、事務機能を十分に備えることができずにいる。その結果、専心活動を続け被災地の人々との良好な関係を作ることに成功した団体が、資金不足の結果撤退することになっている。

東北ヘルプは、そうした事態を見据えつつ、2011年6月に「グランドハウス」を構想した。「グランドハウス」とは、①物資と情報供給の基地を作り、そこを起点として新しいコミュニティを生み出し、②そのコミュニティから得られる情報を基に新しい支援プログラムを構想し、③構想された新規支援プログラムを実行するための企画書を作成して資金申請をし、プロジェクトとして実行し、④そのプロジェクトの中から、再び新しい新規支援プログラムを構想する、という循環を維持する機関のことである。

「グランドハウス」は、事務機能を担うセンター・オフィス（「事務局」と呼ばれる）と、具体的な支援を行うための仮設住宅内の活動拠点（「若林ヘルプ」と呼ばれる）という二つの極を持ち、この協働をもって活動を進めることとした。ここに、「グランドハウス」の特徴がある。それは、上述の他団体の実態から学び、構想されたものである。

この二つの極の内、事務局の役割は、当初想定した以上に大きなものとなった。この事務局は、仮設住宅内の拠点である若林ヘルプの事務機能を担うのみならず、提携する多くの活動団体の事務機能を補助することとなった。その結果、事務局は現在 55 の支援プロジェクトを実行する基盤となっている。

以下、事務局の構成と役割について述べる。

(2) 事務局機能の焦点

事務局の組織は、一つの焦点を以て構成されている。その焦点とは、会計帳簿の作成である。

会計帳簿作成の要点は、「責任性」と「透明性」にある。責任性とは、「誰が何の目的で幾らを使ったか」を確定することによって担保される。透明性とは、責任性について証拠資料と共に明示することによって担保される。

責任性と透明性を確保するために、資金の出金システムが構築された。それは、(a) 金銭の

支払い担当者、(b) 出金の決裁者、(c) 金庫管理者、の三点を結ぶ三角形で出金がなされるというシステムである。まず、支払いの必要が生ずる。すると、(a) 支払い担当者は伝票を作成し、(b) 出金の決裁者はその伝票を確認して出金許可（あるいは不許可）の意思を示し、(c) 金庫管理者は (b) の意思に従って出金し、伝票を保管し整理する、というシステムである。

事務局においては、全ての出金の決裁の際、事務局長の印をもって金銭の支払いが行われることとした。このことにより、金銭の出納において、責任性が確保される。事務局長は、全ての出金において資料の不備がないかを確認し、資料を一つに束ねた紙に決裁印を押す。事務局長の印は、鍵をかけた場所にしまい、許可なしに事務局長以外は触れることを禁じている。

上記のシステムによって、あらゆる出金に責任性と透明性が確保される。このシステムが、被災地の多くのプロジェクトを持続可能なものとする事務機能を担保するものとなった。

(3) 法人化

事務局は、9月に財団法人格を取得した。日本においては、法人格を持たない団体は、信用されない。逆に法人格を取得すると、行政や市民団体からの資金援助を得やすくなる。

事務局は、法人格を取得したことにより、三つの利益を得た。まず第一に、規約などが整備され、組織体としてしっかりした。第二に、雇用した人員の社会保障を充実させ、労働者の人権を保障することができた。第三に、日本国政府や市民団体（「赤い羽根共同募金会」）からの助成金を申請することに成功し、一部は獲得に成功した。

(4) 人員と組織

事務局職員は、毎日朝9時に集合し、研修と情報交換を以て業務を開始している。この9時からの会合によって、全職員の士気の維持と連携の促進が図られている。

事務局は、以下の専任職員によって構成されている。

①事務局長：

1. 事務局職員の労務を管理し配置を決定する。
2. 他団体・個人との交渉を行う。
3. 事務局からの情報を発信する。
4. その他、事務局に関わるすべての業務を担う。

②事務局主任：

1. 全職員の連携を構築する。
2. 事務局の活動全体を視野に入れ、事務局長を補佐する。
3. 新規プロジェクトを開始するための事務を行う。
4. その他、事務局長を補佐する業務を行う。

③会計係：

1. 現金出納を管理する。

2. 出納帳簿を作成し管理する。
3. 会計報告書を作成する。
4. その他会計に関する業務を行う。

④管財・広報係：

1. 備品購入における取引業者との交渉を行う。
2. 備品台帳を作成し管理する。
3. 広報におけるインターフェースを作成する。

⑤受付・庶務係：

1. 電話応対をする。
2. 職員のスケジュールを管理する。
3. 来客者に対応し、来客者名簿を作成する。
4. その他、事務局における作業を行う。

⑥事務局渉外係：

1. 渉外担当理事と共に、エキキュメニカル・ネットワークを構築する。
2. ホームページを管理する。
3. 渉外担当理事のスケジュールを管理する。

⑦事務局秘書係：

1. 事務局長のスケジュールを管理する。
2. 英文和訳・和文英訳を行う。
3. その他、事務局長の業務を補佐する。

⑧食品放射能計測所計測係（予算は「食品放射能計測プロジェクト」より支出）2名：

1. 食品放射能計測機による放射能値測定を行う。
2. 食品放射能測定値の解析を行う。
3. 食品放射能計測機の維持管理を行う。

⑨食品放射能計測所受付係：

1. 食品放射能計測所来所者を受付ける
2. 食品放射能計測所来所予約名簿を管理する。
3. その他、食品放射能計測所の業務を担う。

⑩韓国渉外係：

1. ハングル／日本語の通訳・翻訳を行う。
2. 韓国人宣教師のボランティア活動を支援する。
3. 韓国にルーツを持つ外国人被災者の状況を調査し、その報告書を作成する。

⑪仮設住宅支援係（フルタイム）：

1. 仮設住宅内に設けた被災者支援センターの受付庶務業務を担う。
2. 仮設住宅内で活動するボランティア団体のコーディネートを行う。
3. 仮設住宅内コミュニティーとの連絡調整を行う。

(5) 新規プロジェクトの企画・立案・実行

東北ヘルプは以下のプログラムを構想し、NCC-JEDRO や DRC-net 等と連携しつつ資金調達を行い、プロジェクトを立ち上げた。

a. 外国人被災者支援

実施期間：2011年12月～2012年11月

予算：20,000,000円

b. 食品放射能計測

実施期間：2011年12月～2012年11月

予算：37,458,250円

c. 臨床宗教師養成のための寄附講座開設

実施期間：2012年4月～2015年3月

予算：97,000,000円

d. 高放射線量地域在住の親子を対象とした「短期保養」

実施期間：2012年4月～2013年3月

予算：5,000,000円

2. 人道支援プロジェクト報告

東北ヘルプは、上記の事務局を基盤として、55件の人道支援プロジェクトを展開している。以下にその概要を記す。

(1) 「仮設住宅支援」プロジェクト

①「若林ヘルプ」(プロジェクト数：15)

東北ヘルプは仙台市内の仮設住宅(「東通仮設住宅」)を一室無料で借り上げることに成功した。その部屋を拠点とし、東北ヘルプの一部署として「若林ヘルプ」を立ち上げ、毎月50万円の資金を用いて、以下のような仮設住宅支援を行った。

- a. 「相田みつを美術館長講演会」：仮設住宅居住者を対象に、無料の講演会を開催した。
支援実施日：2012年1月26日
受益者数：約200名
支援場所：若林文化センター
- b. 「廉価な弁当販売」支援：仮設住宅居住者の内、特に生活困窮を対象として、300円で栄養豊富な弁当を業者が販売することを支援した。
支援実施日：2011年10月から連日。
受益者数：約1200人(1～3月のみで600人)
支援場所：東通仮設住宅
- c. 「お正月弁当販売」：お正月のお祝い膳を、廉価で仮設住居者に業者が販売することを支援した。
支援実施日：2012年1月1日・2日
受益者数：180名
支援場所：東通仮設住宅
- d. 「教育事業」：仮設住宅内で、無料の塾を開講した。
支援実施日：毎週火曜日・水曜日
受益者数：約600名(1月～3月は300名)
支援場所：東通仮設住宅
- e. 「内職支援」：仮設居住者に、社会復帰の一助として、内職業務(プリント封書詰め等)を発注した。
支援実施日：2012年1月～3月
受益者数：約60名
支援場所：東通仮設住宅
- f. 「生け花支援」：仮設住宅に毎週新しい生け花を行けるボランティア活動を仲介した。
支援実施日：毎週月曜日

受益者数：約400名

支援場所：東通仮設住宅

- g. 「大工道具配付」：米国等から寄贈された日曜大工道具を、仮設住宅居住者に配布した。
支援実施日：2012年2月13日～25日
受益者数：約2000名
支援場所：東通仮設住宅等、5つの仮設住宅
- h. 「マッサージ・カウンセリング事業」支援：ボランティアでプロのマッサージ師が定期的に仮設住宅を訪れ、マッサージを施しながらカウンセリングを行う事業を支援した
支援実施日：毎週第二月曜日
受益者数：約180名（1～3月は90名）
支援場所：東通仮設住宅
- i. 「お茶会」：大阪YWCAが仮設住宅内でお茶会を開催することを支援した。
支援実施日：毎月第二水曜日
受益者数：約240名（1～3月は120名）
支援場所：東通仮設住宅
- j. 「新垣勉コンサート」：オペラ歌手の復興支援コンサートの開催を支援した。
支援実施日：2012年3月11日
受益者数：約150名（無料招待）
支援場所：若林区文化センター
- k. 「餅つき大会」：山梨のNGOが開催する催事を支援した。
支援実施日：2012年3月20日
受益者数：約100人
支援場所：石巻市
- l. 「漁師用ライフジャケット物資支援」：アラスカ漁協より寄贈されたライフジャケットを漁師へ配布した。
支援実施日：2012年3月22日
受益者数：約50名
支援場所：仙台市若林区
- m. 「ボランティアスタッフ研修会」：若林ヘルプに関わるボランティアがピアセッションと講演を通じて学ぶ催事を開催した。
支援実施日：2012年2月12日
受益者数：22名
支援場所：仙台市内
- n. 「漁業復興のためのファンドレージング」：カナダ国内の複数の漁協からの復興支援金を被災地の漁民にお渡しした。
支援実施日：2011年12月

受益者数：約200名

支援場所：宮城県亘理町

- o. 「赤い羽根中央募金会からのファンドレージング」：日本国内民間団体へ助成金を申請し、199万円の助成を獲得した。

②その他（プロジェクト数：25）

東北ヘルプは、支援のプロジェクトを立てながらも実施のために資金的な問題を抱えている団体や、資金と人員を確保しながら現地の情報を持たないために実行できない団体と連携し、以下のような仮設住宅・避難所への支援を行った。

- a. 「森祐理さん慰問コンサートと玄米のおかゆの炊き出し」

支援実施日：2011年4月18日

受益者数：約200名

支援場所：山元町避難所

東北ヘルプの負担：情報提供とボランティア派遣

- b. 「のみの市」：日本国際飢餓対策機構と共に韓国より贈られた衣類の配布会を行った。

支援実施日：2011年4月25日

受益者数：約1000名

支援場所：サンピア仙台避難所等

東北ヘルプの負担：情報提供とボランティア派遣

- c. 「実務者会議」：東北ヘルプ事務局長を議長として、仙台に拠点を置くキリスト教系支援団体の情報交換会を開催した。

支援実施日：毎週木曜日

受益者数：約30の教会・団体

支援場所：日本基督教団東北教区センター・エマオ

東北ヘルプの負担：会場費 81,000 円

- d. 「岩手教会ネットワーク・温泉プロジェクト」：「3・11岩手教会ネットワーク」が主催し、避難所の方々をバスで温泉にお連れする事業を支援した。

支援実施日：2011年4月15・16日

受益者数：約100名

支援場所：岩手県山田町

東北ヘルプの負担：500,000 円

- e. 「バイオリンコンサート」：バイオリニストの慰問コンサートをコーディネートした。

支援実施日：2011年4月27・28日

受益者数：約1000人

支援場所：青葉区内保育園・宮城野区役所・FUJISAKI デパート・仙台市内商店街アーケード・若林区内避難所・若林区役所・特別養護老人ホーム チアフル遠見塚・ホ

テル岩沼屋

東北ヘルプの負担：情報提供とボランティア派遣および費用負担として 50,000 円

f. 「避難所集会室へのパソコン提供」事業

支援実施日：2011年5月2日

受益者数：約200名

支援場所：サンピア避難所

東北ヘルプの負担：情報提供とボランティア派遣

g. 「サンピアフェスティバル」：縁日やコンサートなどの複合催事を開催した。

支援実施日：2011年5月7日

受益者数：約500名

支援場所：サンピア避難所

東北ヘルプの負担：情報提供とボランティア派遣および費用負担として 149,394 円

h. 「仮設住宅自治会支援」：仮設住宅の催事として自治会がバーベキュー大会を開催することを支援した。

支援実施日：2011年8月29日・30日

受益者数：約200名

支援場所：JR 南小泉仮設住宅

東北ヘルプの負担：費用負担として 38,012 円

i. 「ライフワークサポート・響」支援事業：仮設住宅などを戸別訪問し支援を続ける NGO を支援した。

支援実施日：2011年10月18日

受益者数：約100名

支援場所：気仙沼市・東松島市・多賀城市・仙台市

東北ヘルプの負担：情報提供とボランティア派遣

j. 「七郷中央公園仮設住宅自治体」支援事業：共同体構築のための活動を支援した。

支援実施日：2011年10月24日

受益者数：約50名

支援場所：仙台市若林区

東北ヘルプの負担：費用負担として 183,738 円

k. 「仙台 YWCA「こころの杜」温泉ツアー」支援事業：仮設住宅居住者を温泉へ招待する企画への補助を行った。

支援実施日：2011年10月28日

受益者数：30名

支援場所：仙台市秋保温泉

東北ヘルプの負担：費用負担として 52,500 円

l. 「石巻エアリア キリスト教系ボランティア団体活動報告&情報交換会」：石巻に展開するキ

- リスト教系支援団体の情報交換会を開催した。
支援実施日：2011年11月1日
受益者数：約15の教会・団体
支援場所：石巻山城町教会
東北ヘルプの負担：情報提供とボランティア派遣
- m. 「NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク」支援事業：津波に流された古文書を修復する事業に取り組んでいるNPOを支援している。
支援実施日：2011年11月から現在まで
受益者数：約35名（古文書の所有者のみを算出。古文書の学術的価値を考えると、受益者数：約は算出不能となる。）
支援場所：東北大学
東北ヘルプの負担：費用負担として396,462円（2012年4月現在）
- n. 大船渡宮田仮設住宅自治体支援：自治体事務のために事務用品などを購入し導入した。
支援実施日：2011年9月24日
受益者数：約200名（仮設住宅戸数より試算）
支援場所：岩手県大船渡市
東北ヘルプの負担：費用負担として203,320円
- p. どんぶく支援：仙台市内の仮設住宅へ日本基督教団兵庫教区より支援物資として羽織袴纏（どんぶく）の支援申し入れがあり、その実務を担った。
支援実施日：2011年11月10日
受益者数：120名
支援場所：仙台市七郷中央仮設住宅
東北ヘルプの負担：情報提供と職員の派遣
- q. 「やまもと復興まつり」支援：NGO「おてら災害ボランティア・センター」が主催する事業への支援を行った。
支援実施日：2011年10月30日
受益者数：約1000名
支援場所：山元町山下駅前
東北ヘルプの負担：費用負担として12,000円
- r. 「第一回東日本大震災復興支援リトルリーグ野球大会」支援：NPO法人「笑顔のお手伝い」が主催する事業への支援を行った。
支援実施日：2011年11月19日
受益者数：約150名
支援場所：仙台市宮城野区ガス局野球場
東北ヘルプの負担：費用負担として100,000円
- s. 「縁台納入」プロジェクト：サマリタンズ・パースと共に、仮設住宅へ縁台を納入し、住民と

共に「組み立て会」を行って共同体の結束を強化した。

支援実施日：2011年12月19日

受益者数：約500名

支援場所：仙台市若林区ニッペリア仮設住宅

東北ヘルプの負担：情報提供と職員の派遣、および費用負担として698,026円

- t. 「湯たんぼ支援プロジェクト」：NPO 法人シンフォニーより湯たんぼの提供があり、仮設住宅への配布を行った。

支援実施日：2011年12月27日

受益者数：約200人

支援場所：福島県相馬市内と宮城県南三陸町内の仮設住宅

東北ヘルプの負担：情報提供とボランティア派遣

- u. 写真洗浄プロジェクト：NPO 法人ヒューマン・タイズが企画実行している、被災地で泥をかぶった写真の洗浄プロジェクトを支援している。

支援実施日：2011年5月から現在まで。

受益者数：約1000名

支援場所：仙台市内等

東北ヘルプの負担：情報提供とボランティア派遣、および費用負担として100,000円

- v. 「いわて・ハートニットプロジェクト」支援事業：岩手県沿岸部の仮設住宅で編み物を行い、製品を販売するプロジェクトを支援した。

支援実施日：2012年2月27日

受益者数：約100名

支援場所：岩手県大槌町等

東北ヘルプの負担：費用負担として300,000円（2,3,4月分）

- w. 「石巻仮設住宅支援」への支援事業：いしのみなと教会が主催している石巻市内での仮設住宅への支援事業を支援した。

支援実施日：2011年10～11月

受益者数：約50名（仮設住宅戸数より試算）

支援場所：石巻市内

東北ヘルプの負担：費用負担として200,000円

- x. 「相馬市内仮設住宅」への支援事業：在日韓国基督教総協議会震災対策本部の支援事業を支援した。

支援実施日：2012年3月12日

受益者数：約200名（仮設住宅戸数より試算）

支援場所：福島県相馬市内

東北ヘルプの負担：職員の派遣

- y. 「東松島市内仮設住宅」への支援事業：在日韓国基督教総協議会震災対策本部の支援事業を支

援した。

支援実施日：2012年3月13・14日

受益者数：約400名

支援場所：宮城県東松島市内

東北ヘルプの負担：職員の派遣および費用負担として60,740円

(2) 「外国人被災者支援」（年間予算2000万円／プロジェクト数：5）

東北ヘルプは、「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会」と、NPO法人「笑顔のお手伝い」と共に、「外国人被災者支援プロジェクト」を立ち上げた。このプロジェクトは、2011年12月より海外からの支援を受けてその活動を本格化し、2012年3月には外国人被災者支援センターを開設した。

東北ヘルプはこのプロジェクトのために事務局を活用し、また、このプロジェクト立ち上げのために調査活動を行い、支援センターの事務室を提供した。その詳細は以下のとおりである。

a. 現地調査活動：1500軒の仮設住宅を訪問し、外国人の消息について調査し、必要な支援を実施した。

実施日：2011年9月～12月

受益者数：約30名（支援対象者数）

東北ヘルプの負担：300万円

b. シンポジウム開催：上記調査報告を行うためのシンポジウムを開催した。

実施日：2011年11月8日

受益者数：約40名（シンポジウム参加者数）

東北ヘルプの負担：10,000円（会場費）

c. 原子力発電所事故に伴う東京電力への賠償請求支援：賠償請求のための基本的な情報を整理し、韓国宣教師の助力を得て韓国語に翻訳し、領事館等に連絡した。

実施日：2012年3月

受益者数：約1000名（宮城・福島両県在住の韓国人被災者数の推計）

東北ヘルプの負担：事務局渉外係と韓国渉外係を配置した。

d. 外国人被災者支援センター設置：中国語・韓国語・タイ語を母語とするスタッフをパートタイムで雇用し、相談員として被災地に派遣して外国人被災者の支援に当たらせている（この費用は外国人被災者支援プロジェクト指定献金による）。

実施日：2012年3月から現在まで。

受益者数：約100名

東北ヘルプの負担：1000万円（外国人被災者支援プロジェクト指定献金による）

e. 被災地居住外国人へのアンケート調査：東北学院大学と協働し、石巻市役所の協力を得て、アンケート調査を実施し、その分析を行った。

実施日：2012年3月から現在まで。

受益者数：約7万5千人（被災地居住の外国人住民数を当てた）

東北ヘルプの負担：673,609円（アンケート調査票翻訳のために・外国人被災者指定
献金による。）

（3）「食品放射能計測」（年間予算37,458,250円／プロジェクト数：3）

a. 食品放射能計測所の設立：宮城県仙台市と福島県いわき市に、計測所の設置作業を行い、開所
にあたってはホームページと新聞を用いて広告した。

実施期間：仙台計測所は2011年12月開所

いわき計測所は2012年4月開所

受益者数：22名（開所以来の来訪者数）

東北ヘルプの負担：37,458,250円（食品放射能計測プロジェクト指定献金による）

b. 計測における障害の除去：バックグラウンドの除去・セシウムとそれ以外の放射性物質の選別、
測定結果解析ソフトのバグ除去などを行い、その報告書を作成し、マスコミに公表した。

実施期間：2012年1～3月

受益者数：約750名（日本国内250箇所の計測所に平均3名の職員が配置されていると
して試算）

計測検体数：225検体

実施場所：仙台食品放射能測定所

東北ヘルプの負担：270万円（食品放射能測定プロジェクト指定献金による）

c. 他の計測所との連携構築：他の食品放射能計測所との連携を構築し、情報交換を行った。

実施期間：2012年3月

受益者数：約20名（計測所関係者の人数）

実施場所：福島県・栃木県・宮城県にある食品放射能測定所

東北ヘルプの負担：事務局長・理事・計測所員が各計測所を訪れた。

（4）「短期保養」（年間予算500万円／プロジェクト数：2）

a. 高線量地帯からの短期保養：主に福島県内には、人の多く住む場所で、かつ、低線量被爆の危
険性が極めて高い地域が多くある。こうした場所に生活せざるを得ない事情を抱えた親子に、短
期保養の機会を提供した。具体的には、(i) 青森・宮城・福島の三県における教会ネットワークを
連携させ、(ii) 三県の教会ネットワーク資金によって担当者を雇用し、(iii) 国内各地にある教会・
教団所有の宿泊施設に短期保養希望者を宿泊させる、というプロジェクトを実行した。

実施期間：2012年2月から現在まで

受益者数：4名（試験運用に参加された仙台市内のご家族）

実施場所：にじの子ども園（青森県青森市内キリスト教施設）

東北ヘルプの負担：40万円（3県の教会ネットワークからの資金による）

b. 同趣旨の他団体の連携構築：福島県内で行われた短期保養の実施団体とのシンポジウム・交流

会に担当者を参加させ、情報を交換した。

実施期間：2012年2月11日・3月10日

受益者数：約50名（シンポジウム・交流会参加者）

実施場所：福島県福島市内

東北ヘルプの負担：35,365円（交通費）

（５）「スピリチュアル・ケア」（プロジェクト数：５）

被災地において、悲嘆と不安が精神・身体の正常状態を異常状態に移行させ、自死へと至るケースが、広範囲に懸念されている。東北ヘルプは、医療者やソーシャルワーカーと共に、宗教者が被災者への支援を行うために、以下の活動を行った。

- a. 「心の相談室」設立：仏教者・神道者・キリスト者が参加数するコンソーシアム（「心の相談室」）を医療者・学者と共に作りだした。

実施期間：2011年4月から現在まで

受益者数：約300名（コンソーシアムの活動に参加した宗教者数）

実施場所：仙台市内

東北ヘルプの負担：事務局長の派遣、情報提供

- b. 「出張傾聴喫茶（Café de Monk）」支援：避難所・仮設住宅などへ訪問し、カフェを開催して傾聴にあたる。

実施期間：2011年5月から現在まで

受益者数：約2500名

実施場所：岩手県・宮城県・福島県

東北ヘルプの負担：ボランティア派遣と情報提供

- c. 電話相談実施：無料通話の電話を開設し、被災地からの電話相談を受け付ける。

実施期間：2011年5月から現在まで

受益者数：約100名

実施場所：仙台市内

東北ヘルプの負担：ボランティア派遣と情報提供

- d. ラジオ番組制作放送：毎週一度30分のラジオ番組を制作し放送している。

実施期間：2011年10月から現在まで

受益者数：約25万人

実施場所：宮城県・岩手県・福島県

東北ヘルプの負担：ボランティア派遣と情報提供

- e. 臨床宗教師養成のための寄附講座開設プロジェクト：被災地で宗教者による支援活動を医療者・ソーシャルワーカーと継続的に連携させるための資格設置を目指した寄附講座を大学に設置する。

実施期間：2012年4月～2015年3月

受益者数：約20000人

実施場所：仙台市内

東北ヘルプの負担：9700万円（指定献金による）

4. 会計報告（別紙参照）

5. 4月から6月の課題

- （1）被災地の教会への活動報告を行う。
- （2）国内外の支援者への活動報告を行う。
- （3）2012年7月以降の「グランドハウス・プロジェクト」へのファンドレージングを行う。
- （4）受益者数把握の精度を向上させる。